

安全・安心な施設

環境保全には万全な対策を行い安全を最優先し、持続可能な災害に強い強靱な施設整備を図ります。

地域に愛され 地域に開かれた施設

施設外観は周辺との調和を図り、環境学習機能等の整備など、地域に親しまれる施設整備を図ります。

地域に 貢献する施設

ごみ焼却時の余熱を利用した発電や温水を周辺の施設で活用することにより、地域への貢献を図ります。

令和14年度 鳥取県西部に 新しいごみ処理施設が 誕生します

地域を守る施設

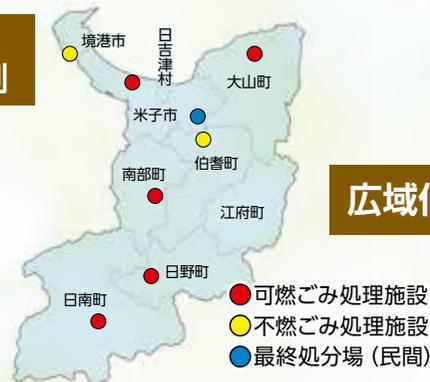
災害時の避難場所としての整備を図り、防災拠点として位置付けるなど、地域を守る施設整備を図ります。

コスト削減に 貢献する施設

集約化により発電効率を高め、余剰電力の売電によりコスト削減に貢献する施設整備を図ります。

鳥取県西部の5つの可燃ごみ処理施設と2つの不燃ごみ処理施設を1箇所に集約します

現在の
処理体制



新しい
処理体制



広域化・集約化

施設を集約するメリット

施設を1箇所に集約し、効率的に処理することで、処理コストの削減、二酸化炭素排出量の削減が可能です。

20年間で最大約60億円のごみ処理コストを削減

年間約2千トンのCO₂を削減

施設の一体的整備

- 処理の効率化や経済性の観点から、可燃ごみ及び不燃ごみ処理施設は一体的整備をめざします。
- 一般廃棄物最終処分場も効率的な処理の推進から、同一敷地内又は近隣での設置をめざします。

基本構想はこちら▶▶▶



近年のごみ処理施設はこんな施設です

生活環境に配慮した施設

これまでは騒音や臭気が懸念され、市街地から離れた地域での建設事例が多く見られましたが、近年のごみ処理技術の進歩により、市街地や市街地近郊での整備事例も増加しています。
環境保全には万全の対策が行われ、安全性を最優先とした施設が整備されています。

武蔵野クリーンセンター (平成29年3月竣工)

まちに溶け込み、まちにつながる施設

- 最新鋭の設備を導入し、環境の保全に配慮した安全・安心な施設
- 武蔵野の雑木林をイメージした外観デザイン(グッドデザイン賞受賞)
- 市役所や学校等に隣接し、市街地の中心部に位置する施設



富士市新環境クリーンセンター (令和2年9月竣工)

安心で安全な環境にやさしい施設

- 「安全と安心を約束する資源循環パーク」を基本理念とし、環境との調和をめざした施設
- 万全な大気汚染防止対策により、環境負荷を低減した施設
- 周辺の自然環境(富士山)との調和を重視した外観デザイン



呉市一般廃棄物最終処分場 (平成27年3月竣工)

周辺環境に配慮した施設

- 生活環境(臭気、ごみの飛散など)に配慮したクローズド型(屋根を設置)施設
- 周辺の自然環境や景観に配慮した施設



電力供給を行う施設

ごみ処理で発生する焼却熱を利用して発電が行われています。
熱回収したエネルギーを電力や温水にして、地域に供給されています。



ながの環境エネルギーセンター (平成31年3月竣工)

エネルギーと資源が循環する施設

- ごみ処理で発生する焼却熱から得られた電力を市内の小中学校・高校(約80校)や高齢者福祉施設(7施設)に供給
- 隣接する総合レクリエーション施設の屋内プールや温浴施設に温水を供給

地域を守る施設

東日本大震災の経験を教訓に、災害に強い強靱な施設の整備が行われています。
災害時には、地域の避難所とし、電力や温水を施設内に供給できる防災拠点に位置付けられています。

今治市クリーンセンター (平成30年3月竣工)

地域の避難所となる施設

- 災害時には320人の市民が避難できる施設
- 生活用品、水など防災用品の備蓄
- 停電時も非常用発電機により施設の運転を継続し、施設内や避難所に電力の供給が可能



令和14年度の稼働に向けた施設整備の動き

令和3～5年度	用地選定・取得	建設用地は、経済性や環境保全性、防災性等の観点から総合的に評価し、最も有効な用地を選定・取得します。
令和5～7年度	施設基本設計	施設の処理能力、処理方法、整備コスト等の具体的な整備計画を策定します。(一般廃棄物処理施設基本設計)
令和5～8年度	環境影響評価	施設の整備にあたって環境にどのような影響を及ぼすか、科学的かつ合理的な調査を行います。
令和9～13年度	施設整備	建設用地を整えるための工事と施設プラントの整備工事を行います。